



# 戦略的な行政との連携策が、子どもたちを救う必要な手立てとなる

特定非営利活動法人 TEDIC



代表理事  
門馬 優さん  
もんま ゆう

震災当時、東京の大学4年生だった代表の門馬さんは、3月の末から「つなプロ」（被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクトの略称）のスタッフとして現地に入りました。自身も石巻の沿岸部出身であり、学生の頃に教育系のNPOへの関わりもあったことから、避難所での子どもたちの様子が気になっていたと言います。その後の2年間、東京での大学院と週末に石巻の避難所や仮設住宅、公民館での子どもたちの学習サポートを続けてきたことが今のTEDICに繋がっています。

2014年に法人化をし、現在は、学習支援と夕食を提供するトワイライトスペースの運営のほか、フリースクール、子ども食堂など、子どもに対する学習支援や居場所づくり、保護者への養育相談、生活支援、進路相談、ソーシャルワークなどの包括的な支援を関係機関や地域と協働しながら提供しています。

## 第二創業としての2013年4月

門馬さんは、2011年の5月に団体を立ち上げ、6月から平日は東京で大学院生と高校の非常勤講師を続けながら、週末は東京の大学生ボランティアとともに地元石巻に入り、避難所や仮設住宅、公民館で子どもたちの勉強をサポートしながらいろいろな悩みを聞くという活動を始めました。

当初は8月末で一旦区切りをつける予定でしたが、終わりに近づいたころ「震災が来てよかった」と話す中学3年生と出会い考えを変えました。その子は震災以前から不登校で、父親はリストラされてアルコール依存症になり、母親への暴力、兄弟の家出など、家の中での問題を抱えていたところ、震災で多くのボランティアが避難所に入り、そのような実態を見ながら話しかけてくれるうちに、初めて自分の気持ちを誰かに伝えることができ、救われたという感情からの発言で

した。その時、「震災の有無にかかわらず、様々な困難な状況におかれているにも関わらず、声を上げられずにいる子どもたちが地域には居る」と感じて活動を続けることにしたと言います。大学院を卒業した2013年4月からは宮城県内の若者たちだけで活動するよう移行し、TEDICの活動を本格化しました。

その後、震災直後に出会った関西のあるNPO代表から、「子どもの貧困」に関する国の大きな流れを聞きました。石巻の避難所や仮設住宅で目にする問題を抱えている子どもたちの置かれている状況はこの被災地域に限ったことではなく、全国でも課題として取り上げられ、その対応策として国が支援の制度化を進めている最中であるということを知りました。TEDICはまさに、そうした世の中の動向を見据え、一人でも多くの子どもたちを救える体制を作りたいと2014年9月に法人化したのです。



▲地域・学校と協働で運営する子ども食堂



▲拠点での活動は子どもと話したり、一緒に食事をしたりして過ごします

## 「ていざん子ども食堂」モデルを石巻市内全域へ

2015年11月、TEDICは子どもたちの孤食を防ぐため、貞山町内会と貞山小学校、石巻市社会福祉協議会と一緒に「ていざん子ども食堂」を始めました。全国的にもユニークな4者協働での運営体制です。町内会のおじちゃん、おばちゃんたちがスタッフのように調理や子どもとの関わり、食材や寄付を集めます。小学校の先生が子ども食堂のことを子どもたちに知らせ、社会福祉協議会が他の地域での展開も視野に運営に関わり、TEDICが事務局として運営に関わるという体制です。

夜道の安全を考えると子ども食堂に参加できるのは「親や祖父母などが送り迎えをしてくれる子ども」に限られてしまいますが、このていざん子ども食堂は、夜遅くまで働く親に代わって地域をよく知る地域の皆さんが送迎をするという支援ができています。支援が必要な子どもたちの存在に気付きそれを支えたいという地域住民の思いが繋がりました。

月に1回運営のための住民会議が開かれ、関係者など10名ほどが集まります。当初の「食堂を子どもたちの居場所に」という思いから、最近では「食堂を通じて地域の大人と地域の子どもが縁の紡ぎ直しをする場」という考えに変化をしてきました。それまでは会話の機会があまりなかった子どもたちと地域住民が出会い、つながりを編み直すことで、安心して暮らせる場所を皆で作上げていくのです。

そしていずれは「ていざん子ども食堂」のモデルを石巻市内に広く展開したいという視点から、運営や住民会議に社会福祉協議会地域福祉コーディネーターも参加をしています。

## 子どもたちを支えるために必要だった「石巻市からの事業受託」

2016年4月、石巻市から「生活困窮世帯の子ども学習支援業務」を受託し、トワイライトスペース事業を拡大させました。さまざまな困難を抱える小中学

生に、17～20時に学習・食事・遊びなどができる居場所を提供するという事業です。それまで自前で活動していましたが、受託事業となったことで既存の3拠点の実施回数をそれぞれ増やすことができ、それに伴いスタッフ3名の正規雇用を開始しました。

法人化からこれまで、日々子どもたちの声に耳を傾け、ある時は踏み込み、自ら必要な知識を学び、また、彼らを救う手立てとして必要とあらば外部の専門家や団体との連携を深め、石巻市からパートナーとして認められるだけの実績と信頼を地道に積み重ねてきました。そうしたことが身を結び、2016年からの事業受託に繋がっています。

スタッフ3名は、それまで有償ボランティアとして関わっていた大学生で、大学卒業とともに正規雇用スタッフとして加わりました。現場を知り、経験と場数があるからこそ現場を任せることができています。そして、昨年秋より新たなパートナーが加わり、法人の管理業務を一手に任せるとともに、これからの経営についても同じ目線で意見を交わせる仲間を得たと門馬さんは言います。

代表自らが現場の最前線で子どもたちと関わり、厳しい現実に向き合い、必要な手立てを外部の専門家等と模索し続けています。深刻化する子どもたちの置かれた状況をみれば、他地域での活動も視野に入れているのかと思われるそうですが、門馬さんは「私たちはあくまで、石巻地域で活動する。一部の組織が大きくなり、子どもたちを支えるのではなく、それぞれの地域で、地域の子を子どもたちを支えたいと思う担い手が、増えていくことが大切だと思っている」と言い、それぞれの地域での担い手を増やすための取り組みも始めています。

## 特定非営利活動法人 TEDIC

< 問合せ先 >  
〒986-0826 宮城県石巻市鑄銭場3番7号  
牧場ビル3階  
TEL ▶ 0225-25-5286 FAX ▶ 022-774-2360  
E-mail ▶ info@npo-tedic.net  
URL ▶ https://www.tedic.jp